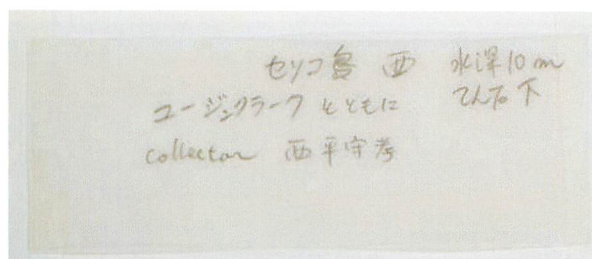
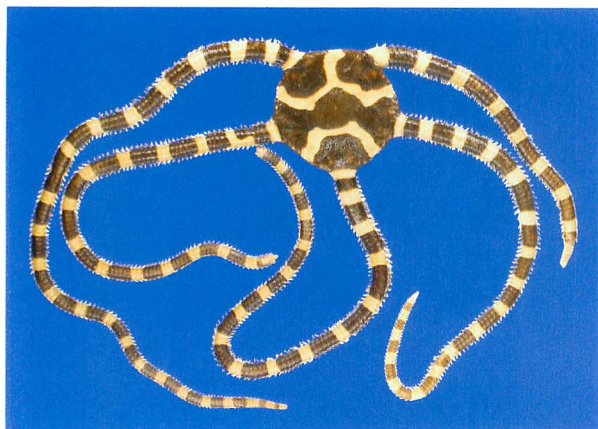


琉球大学学術リポジトリ

[和名] トラフクモヒトデ [学名] *Ophioplocus giganteus* Irimura & Toshino, 1999

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2009-10-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉野, 弘美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/12730

トラフクモヒトデ

Ophioplocus giganteus Irimura & Yoshino, 1999

Paratype (RUEL-ZE-00001)

原記載 : Irimura, S. and Yoshino, H., 1999. *Ophioplocus giganteus*, a new species of Ophiuroidea from Okinawa Island, southwestern Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 25(2): 143-148.

タイプ標本データ

ID	標本種別	採集場所	採集日	採集者	性別	保存状態
RUEL-ZE-00001	Paratype	日本沖縄県瀬底島西	不明	西平守孝		液浸

本標本は発見された最初の本種個体であり、瀬底島西側に広がるサンゴ礁の外縁・水深約 10 m の所で西平守孝博士によって採集された（スキューバダイビング）。採集月日が明らかでないが、ラベルに記載されたユージン クラーク氏が来沖し、瀬底実験所に滞在したのは 1975 年 7 月である。

盤径が 34 mm、腕長が 180 mm の大変美しい大型種である。からだ全体が厚い皮で覆われており、盤の鱗などが表面からは見ることが出来ない。

元々同一属とされていた近縁種に、サンゴ礁の礁原で一般的に見られる *Ophiolepis superba*（ワモンクモヒトデ）がある。*Ophioplocus* 属のうち日本で報告があるのは *O. japonicus*（ニホンクモヒトデ）、*O. imbricatus*（コグチクモヒトデ）、*O. giganteus*（トラフクモヒトデ）の 3 種である。ニホンクモヒトデはサンゴ礁では見られない。

ホロタイプとパラタイプのうちの 1 点が国立科学博物館に、残りのパラタイプ 1 点が琉球大学資料館に保管されている。

（吉野 弘美）